

2011年3月11日に発生した東日本大震災とそれに伴う原発事故により、当初予定していた国内セミナーは急遽全てキャンセルし、海外現地セミナーを開催することにしました。その第一弾となるセミナーをタイ生命保険協会(TLAA)の協力のもと、9月にバンコクで開催しました。

- 名称： OLIS-TLAA 2011
- テーマ：生命保険会社の経営 – 日本の現状とリスク管理
- 日程：2011年9月29日(木)、9月30日(金)
- 場所：スコータイホテル ボールルーム
- 参加者数：1日目… 106名、2日目… 99名

■ 1日目 (9/29)

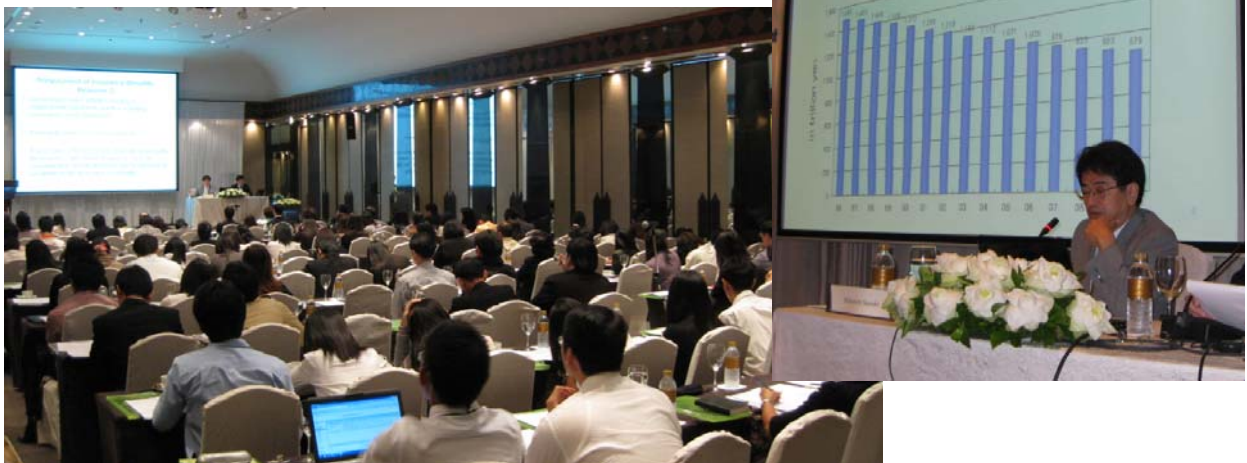
- ◆ まず、TLAAのSutti Rajitragson会長からOLISセミナーの開催を歓迎する開会挨拶がありました。Sutti氏は、近年タイの生保事業が順調に進展していることから、逆にリスクマネジメントの重要性を示唆していました。



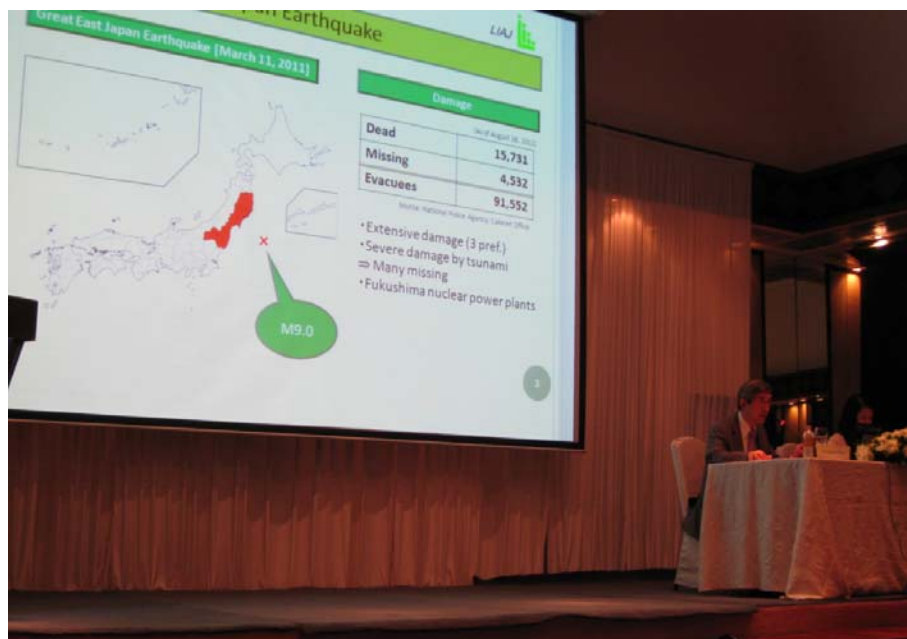
- ◆ 続いてOLICD Center岡本豊治理事長から、財団の紹介や、震災時の支援に感謝する旨の挨拶がありました。



- ◆ 引き続き午前の部、保険情報(保険社)鈴木健市編集営業局部長から「日本の生命保険業界の現状と未来」と題して、現状の分析や今後の動向見込みなどについて講義がありました。そのなかでも「来店型保険ショップ」は受講者の興味を引くトピックスのようで、収益性などについての質問がありました。



- ◆ 昼食をはさんで午後は生命保険協会の椿雅実総務部長から「東日本大震災－保険会社の対応」について講義がありました。今回、バンコクでセミナーを開くにあたり最も期待された内容が震災対応でしたので、受講者は大変熱心に聞き入っていました。



■ 2日目 (9/30)

- ◆ 午前は、武蔵大学経済学部金融学科の茶野努教授から、「エンタープライズ・リスクマネジメント」の講義がありました。ERMの基礎からグラフや数式をまじえた高度な内容まで、幅広い内容が詳細に解説されました。



- ◆ 午後、金融庁監督局の植村信保課長補佐の講義は、「日本の保険監督当局のリスク管理の取組み－東日本大震災をふまえて」。東日本大震災が日本にどのような影響を与えた

のか、金融庁はどのようなスタンスで保険会社のリスク管理に取り組んでいるのか、というものでした。

受講者にとって日本の金融庁の取組は大変興味深い事項と思われ、オペレーショナルリスク、ガバナンス、ALM、SM比、商品関係などさまざまな質問が寄せられ、植村氏は一つひとつ丁寧に回答しました。



- ◆ 最後に TLAA の Busara Ungphakorn Director から、セミナーの盛会を祝うと同時に、タイの生命保険業界の一層の発展のために、今後も OLIS と TLAA の協力が欠かせない旨のご挨拶がありました。

